

HIPスイッチでIPアドレスが重複する環境でも柔軟なネットワーク統合

Tempered Networksとテリロジーによって2週間で実現

自動車アフターマーケット事業者向けに、業務パッケージの提供などITサービスの開発・販売で業界を牽引する株式会社ブロードリーフでは、事業所統合によりネットワーク統合の必要が生じた。統合には両社のIPアドレスが重複していたり、約2カ月という限られた期間での統合であったりする状況で、テリロジーのHIP (Host Identity Protocol)を用いたTempered Networks HIPソリューションがこうした条件を満たす切り札となった。同社の目指すスピード経営を先進テクノロジーで支援した。



課題

- ▶ 事業所統合によりネットワークも統合する必要があった
- ▶ セキュアで柔軟なネットワークを短期間で実現したい
- ▶ 両社のIPアドレスが重複し変更するのに多くの労力がかかる

解決

- ▶ 経営に資するネットワーク統合を約2週間で実現
- ▶ 事業所統合後も業務に最適化された柔軟なネットワーク環境を実現
- ▶ ノートPCの盗難・紛失にも迅速に対応し管理負荷を軽減

事業所統合によるPMIで直面したネットワーク統合という課題

約3万社もお客様に、自動車アフターマーケット事業者向け業務アプリケーションの開発やネットワークシステムなど、ITサービスを総合的に提供している株式会社ブロードリーフ。このITサービスの開発・販売で、業界トップを走っている。ブロードリーフは2017年3月、株式会社タジマの子会社化を決定した。今回、同2位のタジマを傘下に収め、その地位はより盤石なものになった。そして、グループのシナジー効果を高めるため、タジマの本社部門やコンタクトセンターなどの部門がブロードリーフの社屋へ統合されることになった。

これによりPMI (Post Merger Integration)が発生したが、そこで直面した課題がネットワークの統合だった。経営的にも、グループのシナジー効果を高めるためにはセキュリティを確保しながらも高い柔軟性を発揮するネットワークの実現が必要だったという。例えば、タジマの社員がブロードリーフのIT環境下にある複合機や会議室などを使えるようにする、あるいはは



株式会社ブロードリーフ
管理本部 情報システム部
部長 井出征希氏

ブロードリーフの情報システム部が端末監視する際は、どちらの環境でも行えるようにするといった具合だ。

一般的にこうしたネットワークの統合には、既存ネットワークに対する入念な調査と移行設計が必要で、通常は半年程度かかるとされる。しかし、正式にオフィス移転日が決定したのは2017年12月後半。この時点では、まだタジマのデータセンターのシステム構成について、調査が思うように進んでいなかった。しかし、タジマの社員は2018年3月には移ってくる。早急に解決策を講じる必要があったという。

IPアドレスの重複でも導入可能なTempered Networks HIPソリューションを選択

ブロードリーフの情報システム部は当初、拠点間VPNによるタジマのデータセンターとの接続を検討していた。これでタジマの社員がブロードリーフの環境を利用することを考えたが、同年1月後半にタジマのデータセンターのネットワーク構成が明らかになると、ブロードリーフの利用するデータセンターとIPアドレスが重なっていることが判明した。

「2018年3月までの短期間にIPアドレスの変更を完了するのはハードルの高い作業でした」と語るのは、株式会社ブロードリーフ 管理本部 情報システム部 部長 井出征希氏だ。

それではソフトウェアVPNならどうか。これもセキュリティを保つという観点では有効だが、タジマの社員は社内でも毎回ID/パスワードを入力しなければならなくなる。ユーザの利便性を考えると課題が残った。

USER PROFILE

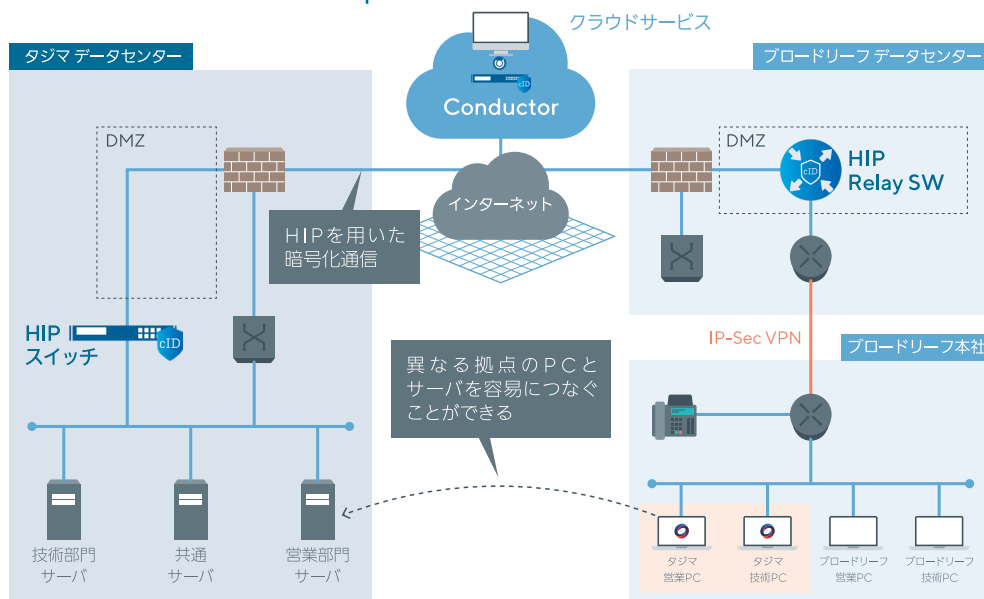
ユーザプロフィール

株式会社ブロードリーフ

所在地 | 東京都品川区東品川14-13-14 グラスキューブ品川18F
設立 | 2009年9月
資本金(連結) | 7,148百万円(2017年12月末現在)
U R L | <https://www.broadleaf.co.jp/>

ブロードリーフは、自動車アフターマーケットの事業者向けITサービスの開発・販売で業界シェアNo.1の実績を誇る。2017年のタジマ(業界第2位)子会社化により、その地位はゆるぎないものとなった。整備事業者向け業務支援システムは全国約13,000拠点で利用され、その豊富な自動車データ情報から業界関係者から連携を期待されるほどだ。

ブロードリーフ様が導入したTempered Networks HIPソリューション構成図



井出氏はブロードリーフと取引実績のあるテリロジーに相談した。そこで紹介されたのがTempered Networks HIPソリューションだ。これは、IPネットワークインフラを変更することなく、ID情報をもとに既存ネットワークから隔離・隠蔽するオーバーレイネットワークを実現。「HIP (Host Identity Protocol)」を用いた暗号化通信で、外部からの不正なアクセスや情報漏えいを防ぐという製品だ。井出氏はすぐに採用を決定、その理由を次のように語る。

「IPアドレスが重なっている状況でも、そこに手を入れることなくそのまま導入できる点を評価しました。また、シンガポールなどの金融機関がATM環境に用いるなど海外の金融機関で高い導入実績があり、セキュリティの観点からも信頼を置けました。日本企業での普及はこれからとのことでしたが、当社はベンチャー精神が高く、新しいテクノロジーにも果敢に挑戦する企業風土があります。そのため迷うことなく選択しました」(井出氏)

導入が正式に決定したのは2018年1月。2週間後の2月半ばには、HIPコンダクターやHIPスイッチ/HIPクライアントなど一連の製品が納入され、設定は半日で完了した。その後、本格移転を前に引っ越してきたタジマのコンタクトセンター部門とブロードリーフの情報システム部、テリロジーの3社でテスト運用を実施。3月上旬には予定していたタジマ社員約70名が席を移したが、トラブルもなく新たな環境で業務を開始することができた。

セキュリティを確保し

2週間でネットワーク統合を実現

その後Tempered Networks HIPスイッチは、拍子抜けするほど安定的に稼働。しかも、ユーザはアクセス先をまったく意識することなく両社の環境を利用できている。

井出氏はその導入効果を次のように語る。

「2週間でネットワーク統合が実現できたというのが最大の効果といえます。時間のかかる入念なネットワーク設計が不要。違う拠点同士のPCとサーバ、あるいはPCとPCなどつなぎたい端末を指定すれば、適切にHIPコンダクターやHIPスイッチの設置場所を割り出してくれて、オーバーレイネットワークが構築できます。そのうえ、万が一外出先でノートPCの盗難・紛失が発生しても、HIPコンダクター上から識別・認証となるID情報を削除すればいいだけなのでセキュリティの面でも安心です」

構築の過程では、テリロジーがマニュアル作成やユーザ研修の主催など手厚くサポートし、Tempered Networksのレスポンスも良かったとブロードリーフは評価している。

ブロードリーフでは今後、タジマとの営業拠点の統合も検討されている。その際のネットワーク統合は現場で完結できるよう体制が整っており、情報システム部は出向く必要はほとんどない。

「事業環境は日々変化しており、これからも当社のグループでM&Aが生じるかもしれません。今回の導入でネットワーク統合が2週間で実現可能なことが証明できました。PMIは労力がかかるとされるなか、こうした迅速で柔軟なネットワークの統合は経営面でも効果を発揮するでしょう」と井出氏は語った。



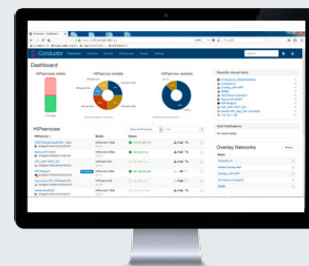
HIP (Host Identity Protocol) とは

HIPは識別子(誰が)とロケータ(位置情報)の分離をコンセプトに、端末認証・トンネル・エンドツーエンドで暗号化してセキュアに通信するプロトコル。TCP/IP通信では認証と通信の暗号化は必須ではないが、HIPの認証と暗号化はより堅牢でセキュアな通信を可能にする。

Tempered Networks HIPスイッチ



IDNコンダクター



HIPスイッチアプライアンス

100-series | 250-series | 400-series

